

調査レポート：VMwareの お客様が代替案を評価

VMwareのお客様の多くは、Broadcomの買収の影響について不満を示しており、少なくとも**56%**が**VMware**の使用を減らすと予想していると、ITリーダーを対象とした新しい調査により報告されています。



Broadcomは、2023年11月にVMwareの買収を完了しました。それ以来、顧客満足度が著しく低下し、VMwareソフトウェアのライセンス費用が急激に上昇することへの不安が高まっていることが、Foundry MarketPulseの新しい調査で明らかになりました。

VMwareは、仮想化分野における業界リーダーであり、機能と市場シェアで圧倒的なリードを保っています。しかし、お客様はこれまで以上に代替手段を検討しています。

しかし、VMwareからの移行には、仮想マシン（VM）内で実行されるワークロードをどこで運用するかを組織が再検討する中で独自のコストがかかります。この調査により、他のハイパーバイザーへの移行を検討しているITリーダーが最も懸念しているのは、新しいプラットフォームやサーバー/データの移行を管理するために必要なツールやスキルと、移行に対応するためのスタッフと専門知識の確保です。

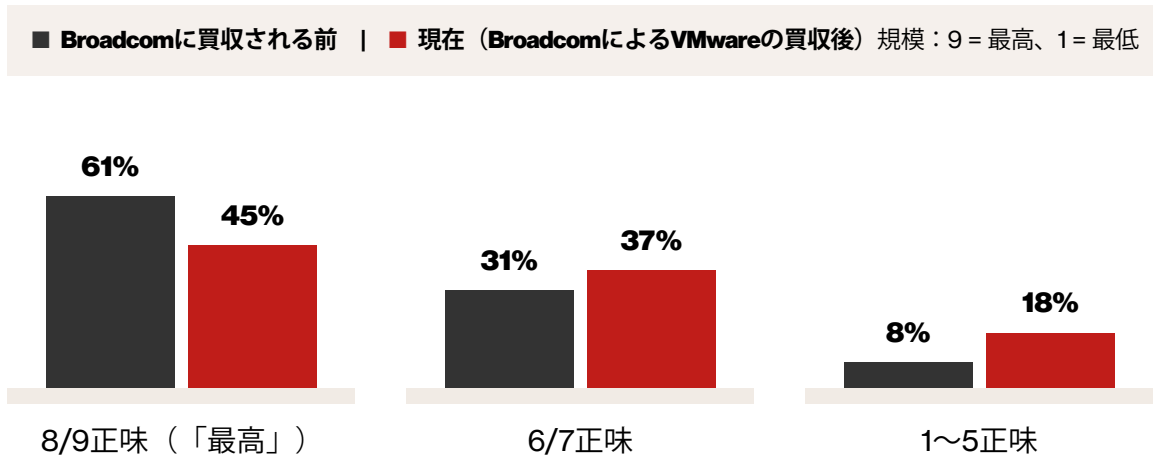
2024年6月と7月に実施されたMarketPulseの調査には、米国とヨーロッパのエンタープライズ組織（従業員1,000人以上）のITリーダー561名が参加しました（「調査について」ボックスを参照）。

主な調査結果

- **63%**：Broadcomの買収前と比べて、VMwareに対する満足度が低下したと回答した組織の割合
- **56%**：今後12か月以内にVMware全体の使用を減らすと予想している組織の割合。28%はまだ決定していないと回答した組織
- **62分**：別のプラットフォームへの移行にかかる仮想マシンあたりの推定平均時間
- **64%**：新しい戦略を達成するために1名以上の専任エンジニアが必要になる組織の割合
- **現在のVMwareコスト：平均で1.47倍**の増加が予想される（使用状況に変化がないと仮定した場合）

ITリーダーが抱える課題とその緩和策について、お読みください。

図1 | VMwareの満足度が急落



Q：VMwareがBroadcomに買収される前と現在の満足度についてお聞かせください。

出典：FOUNDRY

VMwareの顧客満足度は低下している

調査によると、全体的な顧客満足度は低下しています。これは、以前VMwareに満足度の最高ランクを付けた一部のユーザーの間で最も顕著です。たとえば、Broadcomを買収する前は、VMwareの顧客の61%が満足度を8または9（高い満足度）と評価していました。しかし、合併後、VMwareに最高ランクを付けた顧客はわずか45%でした（図1を参照）。

また、この調査では、顧客がVMwareのライセンスやパッケージに現在支払っている金額の約1.5倍という大幅なコスト増加を予想していることも明

らかになりました。つまり、現在年間500,000ドル以上を支払っている組織の59%が、今後は年間735,000ドル以上を支払うと予想しているということです。

59%

現在年間500,000ドル以上を支払っている組織のうち、**今後は年間735,000ドル以上を支払う予定の組織の割合**

その結果、回答者のほとんど（86%）が、今後複数の変更を行う予定であると回答しました。たとえば、人気のある選択肢（回答者は複数選択可能）は次のとおりです。

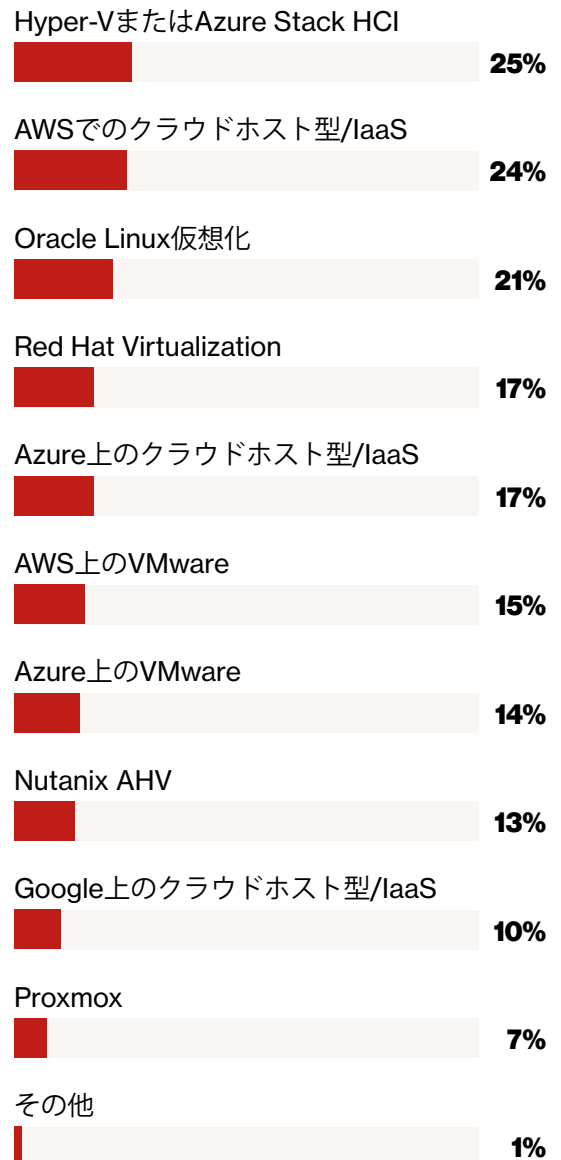
- VMwareの製品階層の変更。
使用する機能に影響する（51%）
- エンタープライズライセンス
契約からの離脱（49%）
- パートナーやライセンスソースの
変更（37%）
- サポート契約の変更（22%）

ハイパーバイザー変更への扉が開かれた

全般的に、ITリーダーはBroadcomの買収による変化により、VMwareの使用を再考しています。現在、データセンターやクラウド向けに、さまざまな代替ハイパーバイザーが利用可能です（図2を参照）。VMwareの代替品を検討している回答者のほぼ4分の3（71%）がオンプレミスの選択肢を検討しています。

シフトはまもなく始まります。VMwareの使用を減らす可能性が高いと回答したユーザーの多くは、**現在の更新サイクル**で一部のVMを他のハイパーバイ

図2 | 組織はハイパーバイザーの代替を検討



Q：ハイパーバイザーの代替を検討する場合、主に考慮すべきことは何ですか？（最大2つ選択）この質問は、VMwareの使用を減らす可能性が非常に高い、またはある程度減らす可能性があるかと回答した316名の回答者に対してのみ実施されました。

出典：FOUNDRY

ザーに移行し始める予定で、36%が6か月以内、さらに29%が12か月以内に移行する予定です。上記の回答者は、すでに移行を計画しています。

- 39%は、一部のVMを自社データセンター内の別のハイパーバイザーに移行する予定です。
- 36%は、一部のVMをクラウドベースの代替手段に移行する予定です。

とはいえ、新しいハイパーバイザーの移行や導入、本番ワークロードの移行は、困難な作業になることもあります。新しいプラットフォームへの移行には、独自の特定の要件があります。ITリーダーは、新しい管理ツールが必要であること、作業にスタッフの時間を割かなければならないこと、専門知識が不足していること、予算割り当ての管理などについて懸念を示しています。

VMwareの既存の顧客の4分の1以上が直面しているもう1つの課題は、外部の専門知識なしに移行または変更を行わなければならないことです。29%は、VMwareパートナーはBroadcomパートナーではない、またはBroadcomのパートナーになる予定はないと回答しています。これらの組織は、支援してくれる他のソリューションプロバイダーを見つけるか、移行を自社で実施するプロジェクトにするかを選択する必要があります。

管理の容易性と人員配置： 大きな課題

VMware管理ツールは、代替ハイパーバイザーをサポートしない場合があります。回答者によると、他のプラットフォームには、VMwareの管理機能の少なくとも一部が欠けている可能性が高いとのこと。また、単一のVMware環境ではなく、複数のハイパーバイザーやクラウドを管理しなければならないことにも懸念を抱えています。これらの問題を総合すると、ITリーダーの移行に関する最大の懸念事項は管理性です。

さらに、ハイパーバイザースタックの複雑さが増し、仮想環境を簡単に管理する能力に影響が及ぶことも予測されています。調査結果によると、2年後には、本番システムのVMの大半はオンプレミスのデータセンターに残りますが、クラウドベースのVMの割合は増加すると予想されています。

もう1つの差し迫った移行の懸念事項は、人員配置です。本番ワークロードとそのデータを新しいハイパーバイザー・プラットフォームに正常に転送するには、現在の担当業務以外の追加タスクに必要なスタッフと時間を現実的に評価する必要があります。回答者は、IT部門の従業員における2つの障害を挙げています。移行に対応できる既存のスタッフが不足していることと、新しいハイパーバイザープラット

フォームに関する経験と専門知識が不足していることです。

これらの課題は、移行に伴うコストの増加につながります。たとえば、89%の回答者は、新しいVM戦略を実現するには、**少なくとも1名の専任エンジニアが必要になると予想しています**（図3を参照）。

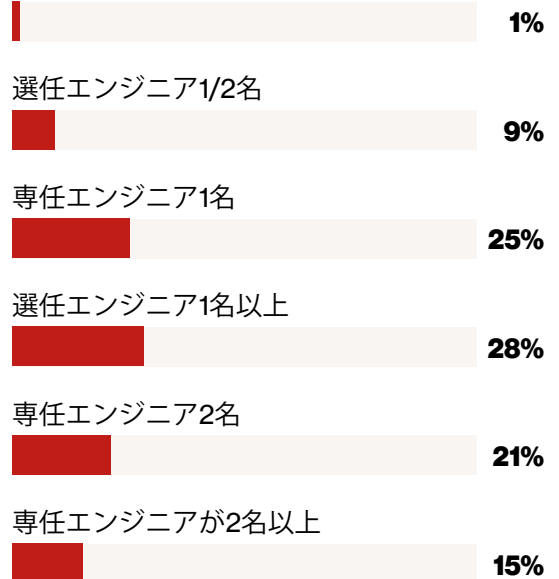
この人員配置の要件を満たすために、ITリーダーには2つの選択肢があります。ハイパーバイザーの移行に取り組むために、既存のタスクから1名以上の従業員を再割り当てするか、移行が完了したら再割り当てする必要がある請負業者や新入社員といった追加の人員を雇用することができます。

スタッフの予算編成がどうであれ、ITチームは多忙を極めます。回答者によると、あるVMwareマシンを別のプラットフォームに移行する場合の推定平均時間は**62分**です。

これに、移行するVMの数を掛けると、移行に必要な総作業時間は、数か月、大企業では1年、あるいはそれ以上になる可能性があります。

図3 | 新しい仮想マシン戦略： 追加のスタッフが必要

なし。追加の作業については、パートナーにアウトソーシングします



Q：チームの観点から、新たな戦略を達成するために、どのくらいの時間/スタッフを割く必要があると予想していますか？VMの移行を計画していると回答した408名からの回答を受け取りました。

出典：FOUNDRY

89%

IT部門は、新しいVM戦略を達成するために**少なくとも1人の専任エンジニアが必要になるとみ込んでいる**

移行の選択肢

異なるハイパーバイザーまたはクラウド・ホストに移行するITリーダーの56%は **本番ワークロードと関連データを移行するために、次の4つのアプローチの可能性を特定しました**。テクノロジーとITインフラストラクチャの他の多くの分野と同様に、それらすべてにトレードオフがあります。2つの選択肢を選択するよう求められた回答者が選択したアプローチは次のとおりです。

■ 選択肢1：新しいハイパーバイザーから移行ユーティリティを使用する。

実際には、これらのユーティリティには通常、2つの重要な特性があります。まず、1つのベンダー固有のプラットフォームにのみ移行が可能です。ITリーダーは、それぞれのハイパーバイザーやクラウドホストに適したツールを見つける必要があります。各ワークロードは、新しい保存先に応じて、異なる調整や微調整が必要になる場合があります。第2に、これらのユーティリティは通常、一方向にしか機能しません。いったん新しいプラットフォームへの移行が促進されると、問題が発生した場合にそれを元に戻すのは簡単ではありません。

■ 選択肢2：専用のサードパーティ移行ツールを活用する。

これらのツールは、ITインフラストラクチャ、ハイパーコンバージェンス、エンタープライズクラウドの専門知識を持つソフトウェア企業やコンサルティング会社によって開発されています。ITリーダーは、検討中のツールが、特定のターゲットハイパーバイザーとクラウドホスト、各ワークロード内のそれぞれのサーバーオペレーティングシステム、移行された各VMの幅広い移行タスクとチェックに対処できることを確認する必要があります。

■ 選択肢3：新しい仮想サーバーを立ち上げて、データのみを移行する。

この選択肢は、一見シンプルに見えます。たとえば、Microsoft SQLデータベースサーバーを新しいハイパーバイザーインフラストラクチャに移行することができます。ただし、ユーザー権限の処理や他のプログラムやサービスへのデータベース接続の設定など、さまざまな詳細なタスクが残っています。

■ 選択肢4：新しいプラットフォームにリストア可能なバックアップを活用する。

バックアップソリューションは多くの場合、マルチベンダーやハイブリッドクラウド環境向けに設計されています。それらのほとんどは、異なるブランドの物理サーバーまたは仮想サーバーにバックアップまたは復元できます。vSphere VMなどのオンプレミスサーバーからバックアップを実行し、Hyper-Vなどの代替ハイパーバイザーや、AzureやAWSなどのクラウドホストに復元できるものもあります。ディザスタ後に元の物理サーバーが使用できない場合に、これらのバックアップソリューションが回復するために使用するのと同じメカニズムを移行にも使用できます。これは、ネットワークドライバなどの特定の違いを識別して管理するように設計されているためです。実際、バックアップソリューションの中には、移行作業の多くをオーケストレーションまたは自動化できるものもあります。

ITリーダーは、VMwareのみまたはVMwareが主流の環境から移行する際に、本質的により複雑なハイパーバイザー・インフラストラクチャを作成します。その複雑さを管理することが優先されます。最新のバックアップソリューションは、オンプレミスやクラウドでの複雑なハイパーバイザー導入で、データのバックアップ、リストア、レプリケーションする上で重要な機能となります。適切に実行されたバックアップソリューションには、サーバー間の違いを見極めるインテリジェンスと、ハイパーバイザーの移行時にサーバーを処理する専門知識が備わっています。

仮想環境向けのバックアップソリューションには、このほかにも次のようなメリットがあります。

- 仮想化に対応したソリューションは、各VM内にエージェントを必要とすることなく、ハイパーバイザーの視点からVM全体をバックアップし、ハイパーバイザーとクラウド間のポータビリティを実現します。
- オフサイトまたはクラウドバックアップのサポートにより、データの冗長性が確保され、ディザスタリカバリが改善されます。

- 自動化とスケジュール機能により、バックアップ操作が簡素化され、効率が向上します。
- 多くのバックアップソリューションは仮想ストレージでも動作するため、ネットワーク帯域幅を消費することなく、ハイパーバイザーからデータウェアハウスにデータをストリーミングできます。
- これらのソリューションは、仮想インフラストラクチャの増大に合わせて拡張できます。

適切に設計されたバックアップソリューションを使用している場合、IT組織はハイパーバイザーの移行に関してまだやるべきことがあります。しかし、自社でやるよりもそれほど難しくはないでしょう。

ハイパーバイザーの未来を担うための次のステップ

皆さんの組織は、VMwareによる価格と機能の予想される変化を受け入れる意思と能力がありますか？まずは、ITリーダーとビジネスリーダーの間でこの問題を提起することから始めましょう。

BroadcomによるVMwareの変更を、戦略を再評価する機会と捉え、オンプレミスのハイパーバイザーとクラウドホストの本番ワークロードの適切な組み合わせなど、代替案を明示的に評価して、組織のハイパーバイザーとクラウドスタックを最適化してください。



45%

Broadcomとの合併後にVMwareに満足度の最高ランクを付けた顧客の割合
(合併前は61%)

各VMの移行にかかる時間と、移行を完了するために必要な専任のスタッフの数という観点から、プラットフォームの移行に何が必要かを確認します。自分自身と経営陣に問いかけてみてください。必要なスタッフリソースはどこから来るのか？

最後に、組織にクラウドホストの保護も可能なハイパーバイザーバックアップソリューションがあるかどうかを確認します。ある場合は、そのソリューションが他のハイパーバイザーまたはクラウドホストへの移行をどのように促進できるかを調べます。ソリューションがディザスタリカバリをどのように実行するかを調べます。ディザスタリカバリには、多くの場合、プラットフォームの移行だけでなく、一度に複数のワークロードがリホストされる際の処理を自動化するためのオーケストレーションも含まれます。

クラウドホストを保護できるハイパーバイザーバックアップソリューションが組織にない場合は、これらの移行に対応し、移行先の新しいプラットフォーム上のVMを保護できるデータ保護ソリューションを評価してください。

最終的な成果

VMwareがBroadcomに買収されたことで、多くの顧客が代替ハイパーバイザーを使用する選択肢を検討しています。コストは増加するかもしれませんが、これはすべての顧客が同じ影響を感じているわけではありませんし、VMwareが必ずしも代替品よりも高価であることを意味するわけでもありません。組織は、本番ワークロードのプラットフォームの変更を検討する際には、特定の状況を慎重に評価することをお勧めします。機能、価格、ハードウェアの実装、クラウド、およびアプリケーションはすべて、決定を検討する上で重要です。

一部のITリーダーは、費用対効果の高い移行パスの決定、必要なスタッフと予算の割り当て、運用戦略の再定義に積極的に関与しています。彼らは本番ワークロードとデータを新しいプラットフォームに移行する際、さまざまなVMwareの競合製品から選択できます。また、最新のバックアップソリューションなどのツールによって、移行をスピードアップできます。

どのソリューションを選択する場合でも、ニーズに合ったハイパーバイザー用バックアップソリューションを用意してください。Veeamでは、VMwareを使い続けるか、別のハイパーバイザー、クラウド、Kubernetesプラットフォームに移行するかに関係なく、明確な選択肢と柔軟性を提供します。

詳細については、[Veeam](#)をご覧ください。

この調査について

Veeamが委託した調査で、FoundryはIT運用およびITセキュリティ関連の職務に従事する561名の上級意思決定者を対象に調査を実施しました。これらの回答者は、フランス、ドイツ、英国、米国に拠点を置いています。各組織は1,000人以上の従業員を抱えており、平均的な企業の規模は8,470人です。

このオンライン調査では、現在のインフラストラクチャ環境、VMwareのライセンス/価格体系の変更による影響、今後のVMwareの使用に関する懸念、今後のインフラストラクチャの戦略と計画、VMwareからの移行に関連して予想される課題などのトピックが取り上げられました。

調査は2024年6月と7月に実施されました。

Veeam Softwareについて

データレジリエンスにおける#1のグローバルマーケットリーダーであるVeeamは、企業は必要なときに必要な場所で全てデータを管理すべきであると考えています。Veeamは、データのバックアップ、データの復元、データの自由、データセキュリティ、データインテリジェンスを通じて、データの回復性を提供します。シアトルを拠点とするVeeamは、Veeamを信頼してビジネスを継続している、世界中で550,000社を超えるお客様を保護しています。

詳細については、こちら (www.veeam.com/jp) をクリックするか、LinkedIn ([@Veeam-Software](#)) でVeeamをフォローするか、[@Veeam](#)をご覧ください。